



のらねこ対馬に行く

2016年12月10日に博多で開催された「第3回大学猫シンポジウム」に参加することにした。

せっかく九州へ行くなら、かねてから行きたいと思っていた島がある。

それは「ツシマヤマネコ」が生息する「対馬だ」。

日本に生息する野生の猫は、西表島のイリオモテヤマネコと、対馬のツシマヤマネコのみだ。普段みかける色とりどりの飼い猫やノラ猫たちは、血統書があろうがなかろうが、皆「イエネコ」という外来種で、法律上は野性動物ではなく「愛護動物」に分類される。

私がツシマヤマネコに初めて関心を持ったのは、

石田卓夫著「猫のエイズ」。

本の冒頭から、1996年にツシマヤマネコに猫エイズ（FIV）が発見された一連の騒動が記録されている。

本によれば、

“ツシマヤマネコには本来、固有のエイズはなく、対馬内に持ち込まれた飼い猫か、飼育放棄されたノラ猫から感染したのではないか。”



という仮説が浮上し、当時環境省が飼い猫とノラ猫50頭の血液検査を実施したところ、11頭（22%）という非常に高い感染率であったことが分かっている。

猫エイズは、種を全滅させることはないらしいが（宿り主を全滅させてしまえば、ウイルス自身も全滅してしまうから）、生息数が100頭程度と言われているツシマヤマネコにとって、

大きな脅威であることに変わりはないだろう。

数年前、この本を読んだ時の関心は、しばらく忘れてしまっていたが、昨年「ツシマヤマネコを守る会」がFacebook ページで、購入するとツシマヤマネコの保全に役立てられる「ツシマヤマネコ米」の記事を投稿していたものを知人がシェアしていたのを見たことがきっかけで、対馬への興味は再燃した。

本の記事から約 20 年。

ヤマネコの島のノラ猫事情が知りたかった。

いざ対馬へ

対馬へは、深夜 0 時発翌日の早朝に対馬到着のフェリーに乗ることにした。シンポジウム後、近所の銭湯でお風呂に入る。昔ながら？の落ち着いた銭湯だった。銭湯のおばちゃんに「携帯充電してもいいですか？」と聞くと「そういうボランティアはしてない」とピシヤリ。そうですよね……。

日の出前の足湯

朝 7 時、対馬着。フェリーを降りる。ひとまず、自転車を組み立てる。お店は開いている気配はないし、どこへ行こうかと案内板を見ると、無料の足湯がある。10 分ほど山道を登ると、途中で第 1 のらねこに出会った。

それからしばらくして、足湯にたどり着いた。が、なんと足湯は空っぽ。柱には『4月～11月のみ』との張り紙が…。「えええええー。冬季にやらないんだー……」と声に出してしまった。



第 1 のらねこ発見



足湯はお休みでした

のら猫さんのフミフミちゅーちゅー

足湯が空振りだったので、しばらくうろうろしていると、可愛い白い猫が。第2ノラ猫発見だ。どれくらいの距離感まで許してくれるか不明なので、まずは遠くからパシャリ、少しずつ近づいてみる。ふむふむ。



第2のらねこ発見

すると、近くの茂みから「ニャー」と第3ノラ猫が出てきた。続いて、わらわらと3匹。ここは5匹のネコロニーのようだ。奥には猫ハウスらしき、段ボールと発砲スチロールが。発砲スチロールは軽くて持ち運びが便利だし、温かいから猫ハウスにはもってこいだ。この子たちは、誰かにお世話してもらっているんだなど、安心した。耳カットはされていないが、お尻をみてもタマタマがついている気配はない。5頭全てオスとは考えにくいので、不妊去勢手術を受けているのかもしれないな。(※のちに地元の方が不妊手術をしていたことが判明)



第3、第4、第5、第6のらねこ発見 5匹のネコロニーでした

初めはみんな近づいてきてくれたが、餌をもっていないことがバレると私に興味を失い各々自由行動を始める。座ってそれを観察していると、恰幅の良い猫さんが私のおなかでフミフミちゅーちゅーし始めた。これは、子猫が母親のミルクを飲む時に、母猫のおなかを揉

んでミルクを出やすくする時のしぐさだ。大人の猫でも甘える時などにこの行動をする子は少なくない。トレーナーの一部を噛んでちゅーちゅーしながら、フミフミ。たぶん、この子は気づいたのだ、私の下腹部にホッカイロが貼られていることを。しばらく、フミフミちゅーちゅーをして満足したのか、こんどは膝の上（ホッカイロに密着する形）で丸くなって落ち着いた。トレーナーは茶色くなって小さな穴が開いた。でも、人より体温の高い猫が膝の上でまるくなってくれれば私も暖をとることができる。



人懐っこいねこさん



ふみふみちゅーちゅー

猫お母さん登場

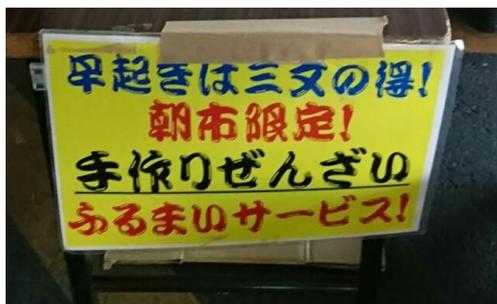
「Win-Win の関係だね」なんて膝でまるくなっている猫さんに話しかけていると、「ブーーンッ」と車がやってきた。すると、猫たちは一斉に車に近寄っていた。絶対に猫お婆さん（ノラ猫に餌をあげている女性の総称）だ！と確信。車から、女性が降りてきて、猫たちのごはんを乗せた紙皿を置く。やはり。

「可愛いですね。いつもこの子たちにご飯あげてるんですか？」と聞くと「韓国から来たの？」と聞かれた。寒かったからカタコトの日本語になっていたのか？と思いながら「兵庫から来ました」というと「そうかね。ここは韓国から観光にくる人が多くてね、そのホテルは特に韓国の方が多いんよ」という。なるほど。「それと今日、埼玉から牧師さんがくるんよ、元々ヤクザで薬物依存症だったのに、神様にであって牧師さんになられた方なの。一緒に講演聞きに行かない？」と。意味が分からない。いきなり、対馬で埼玉の牧師さんの話を聞く？牧師さんというからプロテスタントだろうか？あれこれ疑問は浮かんだが、この寒空の中行く場所も無いしひとまずついていくことにした。以後、この方を「猫お母さん」と呼ぶことにしよう。



スーパーのお汁粉サービス

「朝ごはん食べた？」とスーパーに連れて行ってくれた。なんとお汁粉を無料で配っているらしい。何も買わなくてもいいそう。無くなり次第終了。もし、家の近くにあったら食べに行くだらうな。そのついでに買い物もするかも。お汁粉のために早起きもするし、いいシステムだなーと思った。そして、最高においしかった。



ミサと牧師さんのお話

教会はやはりプロテスタントの教会だった。対馬は、創価学会とエホバが多いかなあ、無宗教の人も多いけどね、と猫お母さん。猫お母さん調べの統計なので、実際のところは分からない。「私、カトリックですけど、いいですか？」と聞くと「そんなのいいよ」と。まあ来るもの拒まずのスタンスだろうなと思ったので、私も隠さずに伝えておいた。正直に言えば、一瞬だけ、プロテスタントのミサに参加していいものか、とためらった。だが、知りもしないものを拒否するのは、どうなんだろうと思ひ、参加することにした。神様だってそんなに懐が狭いわげがない。教会の見た目は普通の民家で、1階にミサをする部屋があり、2階に牧師さん夫婦が住んでいるそう。お祈りをして、聖書を朗読して、牧師さんのお説教のタイミングで、埼玉から来られたという井上牧師が自分の経験を語った。ヤクザとなって、薬物に依存し、自分の腕をナイフで傷つける毎日の中で、今の奥さんに出会い、聖書もらい、聖書を通して神様に出会って立ち直ったのだそう。信じる力の強さと、見えない力が働いているとしか思えないような巡り合わせの不思議さを改めて感じた。

ミサのあとは、皆が持ち寄ってお昼ご飯を食べるそう。ちゃっかり混ぜてもらった。今日は、ゲストがいるのでいつもより豪華だそう。なんていいタイミングに来たんだろう。お昼の間、私は猫の話しかしていかないけれど、興味深く聞いてくれた。

「猫は宗教も超える」なんて考えていた。



第7、第8、第9のらねこ発見

第7ノラ猫さん、第8ノラ猫さんに会った。鼻水ずびずび。体調はあまりよくなさそうだ。でも大事にしてくれている人が多いのか、とても人懐っこかった。



少し離れた所では、たばこ屋さんの前に猫さんが。

第9のら(?)ねこ発見だ。



対馬学フォーラム

対馬学フォーラムに参加した。ポスターセッションでは、色んな分野の研究発表や、活動報告がなされていた。動物に係わるものでは、ツシマヤマネコの生態調査について、外来種のスズメ蜂の影響について、イノシシとシカの食害の深刻さや駆除の方法についてなどがあった。ノラ猫については無かった。イノシシは、江戸時代にいちど大規模な駆除を行い、対馬のイノシシは一度絶滅しているようだ。だが、誰かが持ち込みあっとゆう間に繁殖して、畑を荒らすといった害に困っているらしい。シカは対馬に昔から生息する貴重な種らしいが、一時期取りすぎて数が減少してしまい、狩猟が禁止され、天然記念物に指定された。しかし、その後数が増えすぎて天然



記念物は解除され、今は駆除対象となったようだ。

私は、イノシシやシカのことは詳しくない。ポスター発表ではいかにイノシシとシカの被害があるかと、どんな駆除方法が功を奏しているかという報告はあったが、イノシシやシカが山でどんな意味を成しているかが分からなかったので、ある発表者に聞いてみた。その解答は「イノシシやシカで迷惑している話は聞いたことがあるが、何か役割りがあるとか、メリットがあるなんて話は聞いたことがない」と言われた。それは、見方があまりにも一面的すぎないだろうかと思った。そりゃ迷惑している人にだけインタビューしていたらそうなるだろう。しかし、人間にとってマイナスでも、環境（生態系）にとってマイナスの影響しか与えていない生き物なんているのだろうか。バランスが崩れているにしろ、何か違う一面があるはずだ。そこを見ずに、駆除の効率化だけ考えるのは危険な気がした。駆除が可哀そうとか、情的な話をしたいのではなく、課題に向かう姿勢として違和感を持った。ただ、全員に質問したわけではないので、もっと問題を立体的に捉えている人もいるかもしれない。

ノラ猫が絡む問題もそうだが、撒き餌をする人や、文句言いの人を“問題がある人”と認識を固定させてしまうと、それらの人を何とかすることに意識が持っていかれてしまい、餌やりさんには、餌をやることは悪いことだと説得を試みたり、苦情言いの方には動物愛護法を説明してみたりと、当初の“猫の苦情をなんとかする”から、取り組みがどんどんズレていってしまう。そしてたいがい、そういう説得はうまくいかず、やれることは全部やったが無理でした。という残念な結論に至ってしまう。

違う、そうじゃない。餌やりさんは、ノラ猫に TNR する際の捕獲隊キーパーソンとして、苦情言いの方は、情報提供者として、別の角度からとらえなおすことができれば、地域の猫問題は、解決に向けて動き出す。

グラホ カラオケ忘年会

猫お母さんに誘っていただいて、夜はグランドホテルで開催されるカラオケ忘年会に参加した。70名以上の方が集まって、おいしい食事を食べながらカラオケをする。

詳しく聞くと、各地域でカラオケサークルがあるそうだ。娯楽が少ないので、公民館的なところにカラオケを設置し、地域の方は200円～2000円（200円の公民館もあれば、しっかりお金を取るところもあるらしい）で利用できるそうだ。

そういった各グループが一堂に会して忘年会をするのが、今回のイベントらしい。主催は、対馬グランドホテル。

時間の関係上歌えるのは抽選で35名ほど。参加者は60～85



歳くらいの方々。

皆さん自分が当たったら歌う歌に合わせ、ばちっと衣装を決めてきている。結構な盛り上がりを見せ、歌っている人の友人が勝手にステージに上がって踊りだす。なんとも自由で面白い空間だった。結局私が知っている曲は一つもなかった(笑)。



帰りには参加賞として日用品をいただいた。

そして、対馬初日の夜は猫お母さんのお家に泊めてもらうことになった。

座敷童？

対馬2日目。

昨日声をかけてくれた猫お母さんのお家で目覚める。

目覚めたのは朝ではなく深夜だった。

「カッカッカッカ…」

天井の片隅から音が聞こえる。

少しすると、また違う場所の天井から

「カッカッカッカ…」

外からじゃない…。小さな子どもが下駄を履いて走っているような音をする。

『座敷童だ…。猫お母さんは優しい人だった。良い家に現れるっていうし、きっと座敷童だ…。』悪いお化けじゃないと理解しつつも、冷や汗をじわっとかいた。

正直言って怖かった。

わんちゃん

朝、再びめざめると、猫お母さんがわんこと一緒に二階から降りてきた。

わんこは、ちょっと皮膚がかゆいらしいが、肥満気味のため上手く搔くことができないようだ。

短い後ろ足を思い切って振り上げ、目的の体をひっ搔く。勢い余った足は床に着地し爪が音を立てる。

すると体を搔くたびに、

「カッカッカッカ…」

ちょっと移動しては

「カッカッカッカ…」

……。

対馬市役所

ヤマネコの島のノラ猫事情を知るために、事前に対馬市役所観光交流商工部文化交流・自然共生課の担当職員さんにアポを取っていた。

忙しい中、時間を取って丁寧に対応してくださった担当者の方に大変感謝しています。会話を簡単に文字お越ししたら軽く A4 で 10 ページを超えてしまったので、いくつか要所だけピックアップしたいと思う。

対馬の猫問題は、大きく分けて3つある。

- ・猫の飼い方に関する認識の問題
- ・増えたノラ猫の苦情（糞尿や鳴き声、特定の餌やりによる密集繁殖）問題
- ・ツシマヤマネコと生息域が被ることによる、感染症やケガ問題

問題に対する取り組みは大きく分けて2つある。

- ・飼い猫登録、適正飼育の普及啓発
- ・ノラ猫不妊化事業

猫の飼い方の特徴 一未だに残る“まびき”一

対馬の猫問題について、どんな感じなのかざっくりとした質問すると、猫の飼育感覚の特徴を説明してくれた。以下、会話風に記述する。

市：「対馬は田舎での猫の飼い方で、いわゆる都会のペットとは違って、家の近くのネズミを捕るために餌をあげているというケースが多い。家の周りに猫が一、二匹いてほしいけれど、あまり増えすぎるとそれはそれで困るので、適当に間引きをしたりとか、生まれすぎたら、1匹だけのこしてあとは海にとか、川にとか、山にとか。」

私：「保健所に持ってくるというよりは、それぞれが処理するんですか？」

市：「そうですね。保健所に連れていくとお金がかかったりしますし、そもそも引き取りも今ほど厳しくはなかったにしても安易な引き取りは元々していなかったの。」

私：「遺棄のような間引きは動愛法的にアウトということは理解されているのでしょうか？」

市：「どうでしょう。分かっているけどという人もいるし、濁す人もいる。基本的な概念としては、あるていど理解しているのではないかと思う。」

間引きを行う話は、最近でも田舎や島ではよく耳にする。一昔前ではさほど田舎でなくとも、自分で間引きをしていた経験を語るお年寄りも多い。

間引きで思い出すのは、

坂東眞砂子さんの著書

「子猫殺し」を語る——生き物の生と死を幻想から現実へ

双風社 HP より引用

2006年8月18日付の日本経済新聞夕刊コラム「プロムナード」に、坂東眞砂子による衝撃的なコラムが掲載された。タイトルは「子猫殺し」。このコラムをめぐる、おもにネット上では、猫好きの人々による坂東バッシングが一斉に起こった。



「熱しやすく冷めやすい」というネットの特徴を体現するように、その後、あれだけ加熱した「子猫殺し」に関する議論は終息。けっきょく、坂東による問題提起は中途半端な状態で、世の中に受け入れられてしまった。

本書は、「子猫殺し」の議論を中途半端な状態で終わらせてはならない、という著者と出版社の意向でつくられた。人も獣も含めて、この世に生を受けた生き物が「生きる」こと、そして「死ぬ」こととは、どういうことか。また、「子猫殺し」バッシングとはいったい何だったのか。このふたつの問題について、2006年の騒動を検証することによりあきらかにする。

引用終わり <http://sofusha.moe-nifty.com/books/2009/02/post-293d.html>

ただし、上記の著者は外国で生活しており、ベースとなる法律が違う。

子猫殺しを肯定するつもりは一切ないが、猫の間引き問題だけにとどまらず、命に対する責任の取り方、向き合い方について考えさせられる点が多い本だったと思う。著者の考えが細かく書いてあるので、読んでみて著者は私と全く違う価値観を持っている人ではなく、共感する部分もありながら、決定的に違う考え方の分岐点がいくつかあることも分かり、自分の考えをより深く理解する上で参考になった。とはいえ、読むうえでとても精神力を削られた感覚が残っているのであまり読み返したくはないが…。

話がそれたので、元軸に戻したい。

対馬保健所の猫引き取り数

実際保健所に持ち込まれるより、それぞれが間引きをしているケースが多いのか対馬保健所に問い合わせをしてみた。

昨年度の県内の犬猫に関する統計は市の HP に掲載されている。

昨年度のデータを見ると、対馬の猫の引き取り数は 22 頭、うち殺処分 22 頭、壱岐島は引

き取り数 61 頭、うち殺処分 60 頭となっており、確かに対馬より人口が少ない壱岐島よりも対馬の方が引き取り数が少ない。対馬の引き取り数の内訳を問い合わせたところ、成猫の 4 頭飼い主からの引き取りで、子猫 18 頭は飼い主不明だそうだ。

市：「そういったわけで、飼い方も大きな差があったわけです。そういうところで、条例を作って適正飼養といってもなかなか広まりにくい。なので、最初は猫は本来、ペットですから愛玩動物としてちゃんと飼う必要があるんですよという啓発活動と同時に、それをサポートする支援体制もつくりました。初めの数年間は無料サポートキャンペーンを始めました。今のうちなら無料でできるので、飼い猫登録と避妊去勢手術、ワクチン接種をやってみませんか、と伝えて。適正飼養を理解してもらうためにまず価値観の部分を変えていかなければならなかった。

条例を始めてから、22 年から 24 年は、無料キャンペーンで飼い主が動物病院に連れて行ったら、マイクロチップも不妊去勢手術、ワクチンも飼い猫登録も無料で受けられる。

25 年から現在は、移行期間ということで半額です。」



ノラ猫に対する取り組み

私：「野良猫の場合は、避妊手術のサポートあるんですか？」

市：「法条上はすべての猫に飼い主がいるはずだが、実質上飼い主のいない猫（不明な猫）がいることは事実なので、そういった猫を「ノラ猫」として扱っていて、市の方で、ノラ猫不妊化事業というものを H25 年からやっている。年間 60 頭程度の予算。

捕獲からリターンまで市と NPO 法人どうぶつたちの病院で実施するが、条件がある。

- ・苦情や希望があるごとに持ち込まれても、隣の家の周りで生まれてしまっているのは、解決しない。なので、個別にやらずに、“地区”単位で実施する。対馬は、海岸線沿いに家があり、180 以上の地区（集落）がある。なので、その地区（集落）単位で行うことにしていて、区長さんはじめ、その地区のなかで、猫の適正飼育の合意がとられている場合にノラ猫の不妊手術を市が担うようにしている。

猫の適正飼育の中には、前述した飼い猫の登録や飼い猫ではない猫に餌を与えないということが含まれている。

- ・飼い猫はしっかり飼います。（条例に基づいて登録やなるべく室内飼いで不妊化します。）
- ・ノラ猫には餌をあげません。という 2 点を地区単位で約束してもらう。

地区からのノラ猫問題の苦情を受けて、「地区の方で、猫の適正飼育に取り組むなら、市が不妊化しています」と伝える。すると、「じゃあ皆で（地区で）やろうか（適正飼育を）」というところもあれば、「あー、うちは地区としてのまとまりがない」とか「うちの地区には、ノラ猫への悪質な餌やりおじさんやお婆さんがいるから難しい」といった声もある。そういう中で、できるって地区にじゃあありましょう。となる。」

私：「1頭あたりの医療費やケア内容は？」

市：「病院には1頭あたり、雄雌3万円、ワクチン、餌代、入院費用込み。ほかの自治体では、ノラ猫なので、翌日離すところが多いが、不妊去勢してすぐに話すのではなく、予後も見てもらう。メスであれば、1週間、オスであれば数日、予後をきちんと確認してから捕獲地点に離すようにしている。その入院費や餌代も込み。」

私：「一つのコロニーでどれくらい猫がいる？」

市：「一つのコロニーで30頭くらいが多い。昨年実施したA地区も30頭くらいで、今年フォローアップに2頭実施した。」

コロニーを完全に実施していくやりかたはとても評価できる。例えば30頭くらい猫がいる地域A、地域B、地域Cと3か所あったとして、予算的に今年は60頭が限界だからと、それぞれの地域で20頭ずつだけ手術をするやり方を取ったとし場合、来年に10頭ずつ残りの手術をすれば終わるという展開にはもちろんならず、1年の間に10頭が出産するので来年も各地区手術が必要な猫が2, 30頭いることになり永遠に解決しなくなってしまう。だからこそ、ABCと3地区から相談があったとしても確実にできるところを選抜し、解決事例を年々積み上げていく方法が成果を出しやすいだろう。

私：「苦情はどんな内容がありますか？」

市：「一番多いのは、糞尿被害。あと鳴き声。で、その猫たちに餌をやっている人がいるというのがセットになっている。」

私：「餌やりさんは多い？」

市：「多い。」

私：「市が実施する上では、餌やりをやらないことを約束させるわけですよね？その後はどうなっていますか？私の経験上、餌やりの時間帯を人目につかない深夜帯に変えたり、怒られないように餌をまき散らして逃げるケースとか、餌やりマナーが悪化するだけで、パタリとやめるケースって少ないのではと思うのですが。」

市：「そこは、餌やりは厳禁というところではあるが、色んなケースがあり、苦情が入って、餌やりさんに話に行って、地区でみんなこまっているので、不妊化やりましょうというケースもあれば、逆に餌やりしている人が、増えすぎちゃって困っているケースもある。」

餌さんから市の方で不妊化をしていると聞いたと問い合わせることもある。そういう場合だと、その人が餌をやり続けたから猫が増えてしまった。その人が悪いんですよということは、伝え理解してもらおう。はじめは、可哀そうだと思って餌をあげたことは、愛護的にはいいかもしれないが、それは無責任な餌やりというものだと理解してもらおう。ただ、それを理解したうえで、今後は気を付けますという場合は、これから先が守られればよしということで、手術をした猫に関しては、継続して餌を与えることを認めるかわりに、今後新しく手術していない猫がはいってきた場合は速やかに市に連絡してくださいという約束にしている。」

餌やり禁止を大きく打ち出しているところは少し心配になったが、実施の中で手術をした猫への餌やりを限定的に認めるなど柔軟な対応をされているので、安心した。毎日猫をみている餌やりさんが未手術の猫を見つけ次第連絡するシステムができたのならば、フォローアップは最小限の頭数で最大限の効果を得ることができるだろう。

条例などのルールを徹底して守ることに気を奪われてしまうと、“ルールを守らせること”が目的にすり替わってしまい、そもそも“何のためにルールを作ったのか”を見失ってしまう。そして残念なことに、課題解決を課題解決のために作ったルールが阻んでしまうことがある。

私：「課題はありますか？」

市：「これまでに実施した地区は、わりとほかの地区から距離があり、孤立していた。だからその地域で合意形成ができ、手術を完全に実施できれば成果があげやすかった。だが、厳原のように人も多く地区も広いところや、隣接している地区がある所だと、そこで実施しても隣接している地区から流入してしまいやすい。まとめて実施できたらいいが、そうすると範囲がとてま広がってしまう。そのあたりが今後の課題。実際年間の予算は60頭が限度。対馬全体のノラ猫は何千頭という推定もあるので、それに対して年間60頭では焼け石に水でしかない数字だけでは見える。だからこそ、60頭を無駄にしないため、確実にコロニーごとに有効に実施していきたい。啓発もかねて、ノラ猫対策を実施してもらった地域は解決しているらしいという話が広まるように努めている。」

今までのノラ猫不妊化事業実施状況

実施年	実施カ所
25年	1カ所
26年	2カ所
27年	2カ所

今年は、調整中
大体1地区30頭くらい。

ツシマヤマネコと FIV (猫エイズウイルス)

私：「1996年にツシマヤマネコから FIV (猫エイズウイルス) が発見されてから、どんな状況ですか？」

市：「これまでに、3頭 FIV が出て、とどまっている。ここ最近が発祥したヤマネコは確認されていない。ノラ猫は陽性が多い。地区によっては 50~60% くらい FIV と FeV の感染がある。飼い猫はマイクロチップを入れているので、それで識別して対象地区でマイクロチップが入っていない場合は、すべてノラ猫として扱い、避妊去勢手術、マイクロチップ、耳先カットを実施する。」

環境省のヤマネコ保護増殖事業予算から、長崎県に一部委託され、県から市に「猫の適正飼養事業」として 250 万円が降りてきているそうだ。

日本にある大多数の行政窓口の猫を扱う課は、衛生課や市民生活課の中にあり、苦情対策をメインに担っているケースが多い。一方で、対馬の場合は、ヤマネコ保護増殖事業の一環であることは、大きな特徴といえるだろう。

したがって、苦情対策志向に、ノラ猫への餌やりのルール化やトイレの設置、地域住民主体の活動をメインとした地域猫活動ではなく、課題解決志向の TNR をメインに実施している背景には、事業の根本的な目的に特徴があった。

自転車のパンク

対馬は縦に 80km ほどもある大きな島なので、車が必須だ。だが、車の運転には自信がないので、自転車を持っていった。市役所に行く道中で、「バン！」と何か鋭利なものを轆いてしまった音がした。案の定、市役所の駐輪場に到着した頃には、後輪がペコペコに。困ったのと、市役所の方に最寄りの自転車屋さんを教えてもらい訪ねてみたが、すでに廃業していた。

さて、困ったな。一応パンクした時ようにと変えのチューブとミニ空気入れを持ってきている。ただし、自分ひとりで取り換えたことはない。

仕方がないので、ネットで変え方を検索しながらやっていると、通りすがりのおじさんが

「どうした？」

と声をかけてくれた。事情を説明すると、「どれどれ」と手伝ってくれた。

おじさんによって、タイヤチューブは簡単にとりはずされた。

次の課題は、空気入れの使い方だった。



なぜか、うまく空気はいらない。

困っていると、猫お母さんが助っ人を連れてきてくれた。

島のおじさんとお兄さんたちが、空気入れの使いかたを調べて試行錯誤。

何やらパーツを分解して、向きを変える必要があることが判明し、見事自転車のタイヤは完治した。

穴の開いたチューブは一人のお兄さんが捨てとくよと持って行ってくれた。

そういうわけで、危機を脱することができた。

専門家がないからこそ、皆の守備範囲が広い。これは、ひとつの豊かさだと思った。都会では、分業化、専門家が進み、なんでも専門家に頼ることで、仕事は生まれるのかもしれないが、できないことが増えていく。



困っている人を助けてあげられる

事が減っていく。それは、ある意味、豊ではないのかもしれない。そんなことを思った。

動物好き家族のお家と猫好きのお店

初日に泊めてくれた猫お母さんの息子さんご夫婦の家に2日目は泊めてもらえることになった！なんてラッキーな。

晩御飯には、“猫好き”だという友人の方も来てくれ、4人で手作りごはんを楽しむ。

そして、猫好きのオーナーがやっているお店があるからと晩御飯後に飲み屋さんへ連れて行ってくれた。

お店の人によると、対馬でノラ猫の里親探しをする団体、NYAT(にゃっと:N ねこ Y よろしくね A ありがと T 対馬)を最近立ち上げたそうだ。動物病院事情、島の動物観など市役所の方とは違った目線を色々情報が面白くて話込む。

ふと、タイヤがパンクした時の話から、対馬は困っている人に親切な人がなんでこんなに多いのか聞いてみた。

すると、「対馬はあまり娯楽がないから、誰かの小さなハプニングはちょっとしたイベントなの。工夫して助けるのも楽しいし、助けてあげたって話してしばらく楽しめる。だからそんなに恐縮せずに助けてもらえばいいよ。」と。

ものすごく面白くて納得できる説明だった。そういう重たくない感覚で回る親切の循環システムってとっても重要なことなんじゃないかと感じた。

ツシマヤマネコを守る会とヤマネコ米

対馬3日目。

この日は、ツシマヤマネコを守る会の方にアポを取っていた。

ご自宅におじゃまし、ツシマヤマネコの生態や会の活動など教えてもらった。

ツシマヤマネコはイエネコ（普通の猫）に比べて、耳先がまるく、短い脚、太いしっぽが特徴だ。模様はキジトラの猫に似ている。

昔は下半島にも生息していたが、今は上半島に生息域が狭まってしまっている。

警戒心が強く、島の人でさえ、野生のツシマヤマネコを見たことがある人は少ないそうだ。

ツシマヤマネコを守るツシマヤマネコ米の記事を見た時、なぜ、お米を作ることが野生動物を守ることにつながるのか疑問だったが、ツシマヤマネコは里山が盛んな時期に多く生息していたという。それは、田畑に生息するカエルやネズミがヤマネコの主な餌となっていたからだ。

今回は、日程の関係で直接お会いすることができなかったが、

「ツシマヤマネコ米」を作成販売している「佐護ヤマネコ稲作研究会」HPには下記のように書いてある。

ツシマヤマネコは、田んぼの周辺でよくみかけられることから、

「田ねこ」とも呼ばれています。

ヤマネコといっても山奥にいる訳でなく、

実は私たちのすぐ近くで生活しています。

はるか昔からずっと続く人の営みが、

ツシマヤマネコを支えてきました。

ツシマヤマネコは、そんな対馬の

人と自然の調和の象徴なのです。

HPより引用 <http://www.yamanekomai.com/>



というわけで、田畑が放置され荒れてしまったのも、ツシマヤマネコ現象の一要因ではないかと考え、動物と共生できる伝統的な里山を残そうと活動している。

そのために、佐護ツシマヤマネコ米の栽培基準必須事項として、化学肥料や化学農薬の削減、努力事項として、無農薬栽培や、水田の一部に生きものの避難用の溝を造成することなどを定めている。

何かを保護したい時に、直接捕獲隔離するのではなく保護対象を取り巻く生態系を保護し

ようとする考え方はとても共感する。当たり前のように感じるかもしれないが、結構見失ってしまいがちなことだと思った。次回対馬に行った際はぜひ、研究会にもアポを取ってみたい。

上半島の民宿とお財布

夜、猫お母さんがこの日も泊まっていいと言ってくれたが、上半島もゆっくり見てみたかったので、比田勝という上半島の港の近くに宿をとった。

この選択が後に悲惨な事態を招くことになるとは、この時はまだ知る由もなかった…。

宿について、宿泊費と朝ごはん代を含めた 5000 円を支払って気づいたことがある。

対馬に来て 3 日目の夕方、この宿代を支払うまで私は缶コーヒー 130 円しかお金を使っていなかった。

島の人の優しさに驚いた。

第 10 ノラ猫さん発見

民宿の近くのもの置き場で猫さんを発見。近所の方がご飯をあげていた。話を聞くと、元々お年寄りに飼われていた飼い猫だったが、飼い主さんが亡くなってしまったそうだ。それで、餌だけでも近所の方があげているらしい。飼い猫とノラ猫の堺はとても曖昧だ。



第 10 ノラ猫さんはモモちゃんというそうだ

ノラ猫さん発見

対馬 4 日目

15 時のフェリーに乗る予定だったので、朝は宿の周りを散策。

人懐っこいノラ猫さんたちに出会った。

なんだか足の短いねこさんたち。ヤマネコの遺伝子が入っていないと思うけど…。



第11、第12、第13のらねこ発見

フェリーの欠航

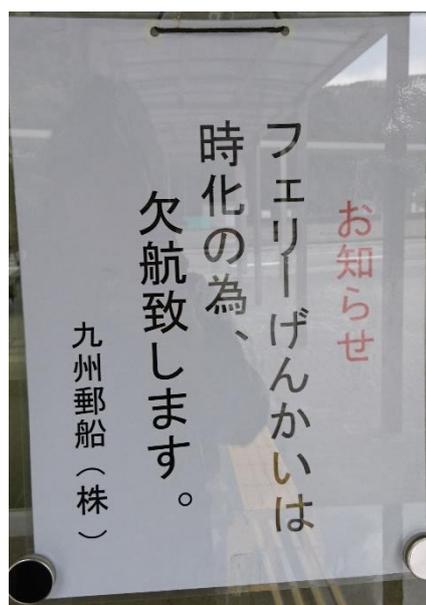
のんびり猫さんたちと遊んでフェリー乗場へ。
あれ、人がいない？と思ったらまさかの張り紙が。

やばい。帰りの新幹線の切符は21時50分の指定席（5日以上前に予約すると7600円で博多から新大阪まで乗れる格安切符だか、時間の変更は一切できない）。7600円が水の泡になるだけじゃなく、もう一泊の宿代もかかるし、明日フェリーがでる保証もないし、なんなら明日の夕方に京都で予定が入っている……。

とりあえず、困難は言語化するに限る。
対馬で出会った人たちに「フェリー欠航になりました…」とLINE。

すると、一人の方が「飛行機ならまだ間に合う！」と。その手があったか！
でも、空港までチャリを飛ばしても4時間はかかる、間に合わない…
するとさらに、別の方が「仕事で大きい車で島の半ばまで来ているから、自転車ごと迎えに
いってあげる！」と！なんと！！

昨日もお世話になった方に迎えに来ていただき、車だと飛行機の時間までだいぶあるのでついでに観光名所に連れて行ってもらいました。



1500歳の銀杏

1500歳のイチョウ！大きい！カッコいい！

近くに猫さん。長毛さん。飼い猫かな？



第14のら(?)ねこさん発見



対馬名物たい焼き

対馬名物のたい焼き。モチモチなんだけど、周りがカリカリで、白あんと普通あんとある。外カリでなかもちっとしっとり、めちゃくちゃ美味しい！そして形が丸い。

「なぜ丸くしたんですか？」と聞くと

「一般的な形だと、真ん中にあんこを入れるのが難しいし、しっぽに入らなかったりするから。」と。

なるほど、そこは技術を磨かないのか、今川焼との違いは、、、！？と一瞬思ったが、もし、あんこを真ん中に入れたりしっぽまできれいに
入れる技術を習得するのに3年かかるとして、そこんところは形を変えるという発想の転換でカバーし、生地
の調合や餡の作り方にそ



の3年をかけることができるとしたら、それは有意義な3年で、他との差をつける3年になったのかもしれないなあ。。そういう時間の使い方、自分はできているだろうか。なんて思いながら、お土産にもたい焼きを購入。

ハチの巣箱

山の側面や民家の裏にかわいらしい感じの置物があちらこちらにあった。何なのか聞いてみると、ハチの巣だそう。日本ミツバチが生息している対馬ではこうやってはちみつを取っているらしい。でも最近では外来種のスズメ蜂によって、日本ミツバチはかなりのダメージを受けているらしい……。



飛行機へ

車で送ってくれた方と、昨夜泊めてくださった家族に見送られ飛行機に無事乗り込むことができました。

島外在住の場合飛行機代は17000円。高い。が、もう一泊したら7600円のチケットは紙切れになるし、明日新幹線を取り直したら、新幹線代だけでも14000円かかってしまう。

そして、無事飛行に乗り、博多についた。

新幹線まで時間があるなど、ゆっくり珈琲を飲んでいてふと新幹線の切符を見て寒気が走った。

21:50発だと思い込んでいたその切符には20:50発と書かれている。

珈琲片手に博多駅前でのんびりしている今の時刻は20:55。

そしてそれは最終の新幹線だった。

泊まる所はない。明日の夕方には京都で用事がある。

スマホで夜行バスをしらべ、30分後に小倉駅から出る最終バスをギリギリセーフで予約。本当は自転車は積んでももらえないが、頼み込んで積んでもらう。

今回の旅は5万円の予算にしていた。

3日目の夕方の時点では3万円くらいお金が浮いたとふわふわに浮かれていた。

4日目の深夜。予算ピッタリ使い切って（29,600円の余計な出費）、体力も使い切って、夜行バスに乗り、8時間の道のりで1回も起きることなく、5日目早朝に帰宅することができた。

「猫」というキーワードだけで、縁をつないでいった今回の旅。とてもとても思い出深く、楽しい旅でした。また、対馬に行こうと思います。

次回の連載時にはどこで何をしているのか。楽しみにしてもらえたら嬉しいです♪



おわり

小池英梨子

立命館大学院応用人間科学研究科対人援助額領域 2015年修了

猫を切り口に、共生と共存社会のリアリティについて研究

公益財団法人どうぶつ基金に2年間勤務し、犬猫の殺処分ゼロを目指す取り組みに従事。

現在は、「ねこから目線。」としてフリーで活動中。

